

広島大学学術情報リポジトリ  
Hiroshima University Institutional Repository

Title	スナップ : さおり(姉)と、きえ(妹)と、
Author(s)	児童の言語生態研究会,
Citation	児童の言語生態研究 , 14 : 108 - 109
Issue Date	1990-11-25
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045169">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045169</a>
Right	
Relation	



59・3・9

きえがひとりすわって、本を読んでいる。  
母親——きえちゃんえらいね。本、読んでるの？

さおり「ちがうでしょ。見てるんですよ」

(さ2／6才、き1／0才)

59・3・11

きえ「あーあー」

さおり「きいたん、牛乳ほしいの？」

コップに入っている牛乳をさおりがきえにのませる。

さおり「きいたん、おいしい？」

きえ「おいち——」

59・7・19

さおり「結婚しましょう」

きえ「しよう」

(さ2／10才、き1／4才)

# スナ ッ プ

さおり(姉)と、きえ(妹)と、

59・12・17

ピーナッツを食べている時、  
父親——きえちゃん、お父さんに、二つ、ちよ  
うだい——

きえ「はい、二つ」

さおり「はい。いっばい。大サービスですよ」

(さ3／3才、き1／9才)

60・1・15

ふたりで遊んでいたが、さおりにいじわる  
をされたらしい。

きえ「それじゃまたあしたね」

と言って、さおりのいる部屋の戸をパタン  
と閉めた。

(さ3／4才、き1／11才)

60・1・25

きえ「お母さんにだっこして食べる」

母親——じゃ、お母さんが食べ終るまで待つて  
てね——

ところが聞きわけがない。語調をかえて

母親——待つてなさい——

泣き出し始めた。

さおり「じゃ、きえちゃん、さおりちゃんのと  
ころへおいで。さおりちゃんが食べさせてあ  
げるからね。ね。」

きえ「うん」

さおりの椅子に、ふたりぎゅうぎゅうづめ  
にすわって御機嫌である。

(さ3／4才、き1／11才)

60・1・31

さおり「おしっこに行く。暗くてこわーい。きえちゃん、ついて来て」

きえ「うん。きえちゃん、ついていってあげる。ここで、お馬さんに乗ってるね」

と、トイレの前に置いてある木馬に乗って、姉の見張り番をつとめる。

60・2・13

さおり「さおりちゃん。どんどん大きくなったら、お母さん、どんどん小さくなっちゃうの？」

きえ「きえちゃん、赤ちゃんになっちゃうの？」

(さ3/5才、き1/11才)

60・2・21

さおり「おさいふがない」

と言って泣く。

きえ「きえちゃんが、あしたさがしてあげるからね。ねっ。」

(さ3/5才、き2/0才)

60・3・21

母親が、きえに赤い傘を買って来た。さおりは2才の誕生日に自分で選んだみどり色の傘を持っている。

さおり「赤い傘ほしいの」

と泣き出した。

きえ「さおりちゃん、これほしいの？ きえちゃん、あげる」

母親——きえちゃんは、みどりのペンギンさんの傘でいいの？

きえ「うん」

と言って、それを取りに行つて、その傘で遊んでいて、気づく。

きえ「きえちゃんの傘の方が大きいよ。」

それを聞いてさおりがまた泣く。泣き止んだから、

さおり「さおりちゃん、赤い傘がいいか大きい傘がいいか、わからなくなっちゃって泣いた

の。さおりちゃんに、こんど赤くて大きい傘買ってね。」

(さ3/6才、き2/1才)

60・5・28

姉妹、自分でそれぞれのコップにパックから牛乳をついで飲んでる。

さおり「自分で入れるとおいしいと思わない？」

きえ「きえちゃん、おいしいよ」

(さ3/6才、き2/2才)

60・5・30

姉妹、むかい合つておじぎをしながら、さおり「いつもどうも、お世話になつております」

きえ「こんにちは。いつもどうも……いつもどうも泣いちゃってすいません」

(さ3/8才、き2/3才)